

今年度第7回目の「授産品バザー」は晴天の11月16日（水）に「旧ゆめ広場」にて開催いたしました。

今回のバザーでは11月ということもあり、会場にクリスマスの飾りつけをしてみました。授産品の金額がわかりにくいという声も聞かれましたので、主な授産品の金額を書いたポップを多数展示しました。いつもとは違った雰囲気になり、賑やかにバザーをスタートさせました。飾りつけが功を奏したかどうかはわかりませんが、午前中は途切れることなく来場者があり、私達スタッフが嬉しい悲鳴を上げる場面もありました。

来場者の中にはこの「授産品バザー」を毎月とても楽しみにしていますと云ってくださる方もいました。また、「アベック」で作られた「パリジェンヌ」が美味しいと展示している「パリジェンヌ」全てを購入された方もいました。前は時間がなかったためゆっくり見ることができなかったから今回は時間を作ってきましたとたくさんの授産品を購入して下さった方もありました。このように善意の来場者に支えられて授産品バザーを続けられることに感謝の気持ちでいっぱいです。

私達ボランティアスタッフは毎回少しずつでも工夫してよりよい授産品バザーにしていきたいと願っています。何か良いアイデアがありましたら、ぜひお知らせください。

| | | | |
|----------|---------|------|-----------|
| この日の販売額は | 「旧ゆめ広場」 | 売り上げ | ： 42,310円 |
| | 「協力店」 | 売り上げ | ： 4,960円 |
| | 総売り上げ額 | | ： 47,270円 |

10月16日に、ウェル戸畑にて「市民フェスティバル」が開催されました。

私は、八幡西区ボランティア連絡協議会のボランティアとして、イベント広場のバザーコーナーで、から揚げ・赤飯・たこ焼きなどの販売を手伝いました。天気にも恵まれ、お客様が多く、品物は早くも1時には完売しました。それで、多目的ホールで催されたボランティア講座（分科会）の防災講座「わたしたちにできること～東日本大震災の教訓を生かして～」に参加することができました。

被災地にボランティアとして行かれた方の体験発表があり、被災地の現状をいろいろ学ぶことができました。

清掃ボランティア（民家の片づけで土砂の撤去など）をされた方は、気温30度の中、突風が吹いた時はヘッドが砂煙のように舞う中でゴーグルや防塵マスクをつけての作業を行ったそうです。このような被災現場で大切なことは、「それぞれの立場で考えていくこと」ですが、自分勝手な行動をすることではないことを話されました。

避難所の運営の支援ボランティアをされた方は、「衣食住・先の見通し・ストレスのはけ口・リアルタイムな情報など」が必要であり、避難施設では、全体をまとめるリーダーが重要だと話されました。

今回の震災は、想定外のことが多く、「大丈夫」という油断が生死を分けるということを知りました。またこのような状況の中、『絆』の大切さが見直されています。

私も、日頃から地域との関わりをもち、『絆』を深めていきたいと思います。（O. K）